

スポーツによる 膝の傷害 ～半月板損傷について～

VOL.10



落合 聡司 Ochiai Satoshi

山梨医科大学(現山梨大学医学部)卒。整形外科医としての診療や膝半月板の研究などで活躍する。今年4月より、国立病院機構甲府病院副院長に就任。山梨県ラグビー協会メディカル・安全委員会副委員長、山梨学院大学ラグビー部のチームドクターなども務める。

は

はじめまして、国立病院機構甲府病院 スポーツ・膝疾患治療センターの落合聡司と申します。我々はスポーツ傷害や膝を患った患者さんを専門的に治療することを目的に、当院の整形外科にスポーツ・膝疾患治療センターを2007年に開設しました。年間で約850件の膝関節手術を行っており、このうち半月板の手術は約400件を占めています。

半月板とは、膝関節の内側と外側にある三日月状の軟骨組織であり、膝関節を安定させ荷重を分散し衝撃を和らげるクッションのような役目を果たしています。多くはスポーツ時にバランスを崩し膝関節に大きな捻れの力が生じた際に損傷され、サッカーやラグビー、バ

レー、バスケットボールでの受傷が高率に見られます。中高齢者では加齢によって半月板組織が劣化し、何でもない軽い動作で損傷する場合があります。

半月板を損傷すると痛みや腫れが生じ、断裂半月板が関節に噛みこんでしまうと膝が曲がったまま伸びなくなることもあります。損傷した半月板を放置すると膝関節の表面も傷みだし、さらに進むと関節の変形(変形性関節症)を生じます。

半月板損傷はMRI(磁気共鳴映像法)で診断されることが多いのですが、最も診断率が高く、かつ治療に直結する方法として関節鏡という方法があります。2ヵ所の小切開(6mm程度)から鉛筆程の細いCCDカメラを関節内に挿入することによ

りモニターに映し出された映像を見ながら診断を進めていくことができます。半月板の損傷があれば同時に縫合や部分切除などの処置を施すことも可能で、処置後は早期に歩行やスポーツの復帰が可能となります。

膝を患ったスポーツ競技者は多く、原因として半月板損傷が関わっていることは少なくありません。膝に不安がある方は早期に専門性の高い医療機関で診察してもらうことをお勧めします。